

◆ JIPAT 法人会員の会 報告

ズバリ！正会員に聞きたい！「IPって何？どんな仕事をしているの？」 第2弾『建築系IP』編

講師：佐藤 勉（佐藤勉建築設計事務所代表）JIPAT国際委員会委員長 / 霜野 隆（（株）ティ・デザイン・エス）JIPAT副会長

去る2月6日（金）東京国際フォーラムD1ホールにて第2回目の法人会員の会の主催セミナーが開催され盛況好評のうちに終了いたしました。

参加者は法人会員28社69名、正・一般会員9名の計78名。

法人会員の会では法人会員企業のより一層のビジネスチャンスの拡大と会員相互のコミュニケーション強化を狙い、今期より主催セミナーを企画いたしました。他の委員会にはない企画として法人会員企業のJIPAT担当者以外の社員の方にも参加してもらい、広くIPを理解してもらう機会とするものです。もちろん、正会員、一般会員にとっても「あの人、どんな仕事をしている人？」の疑問が解けるよい機会と考えました。セミナー主題も「ズバリ！正会員に聞きたい『IPって何？どんな仕事をしているの？』と掲げ、IPという専門性とその職域の広がり理解して、法人企業の営業活動にお役立ていただけるものと思います。正会員の方を講師とすることにより、法人会員の特に若手の社員教育、今後の営業の参考になる企画と確信いたしております。

年4回のシリーズ企画のセミナーとしての第1回は、昨年10月にスペース系IPとして会長の志村美治氏と安藤勢津子女史を講師に迎え盛況となり、今回は第2回目の開催となりました。第2回目の今回は、建築系IP編として副会長の霜野隆氏、国際委員長の佐藤勉氏をお招きして、お二人の実際のプロジェクトを題材にその作品紹介、プロセス、本音を語って頂きました。霜野さんの素材へのこだわり、アイデアと佐藤さんのコンセプトとアプローチを伺い、建築寄りの観点からのインテリアの話に皆さん是非作品を見学したいと感想を漏らしておりました。



今後もこのようなセミナーへの参加を通してインテリア業界での異業種交流にさらなる会員同士の人脈づくりのできる会活動、新入会員を巻き込んだ活動、しつては新規加入の呼びかけにつながればと考えております。

■次回以降のセミナーは、
シリーズ第3弾 『プロダクト系IP』編 5月19日（火）
シリーズ第4弾 『コンサル系IP』編 7月予定

会場は同じ、東京国際フォーラムD1ホールです。
是非ご参加ください。もちろん正会員、一般会員、学生会員の方の参加大歓迎です。
(JIPAT法人会員の会WG-4)

★参加できなかった方のために、セミナー講師、霜野隆氏による貴重なレポートです。当日の資料もご提供いただきました。

最初に、佐藤勉さんが「用・強・美のプランニング」と題した講演を行いました。

茨城県常総市に設計した『天然温泉きぬの湯別荘』のプレゼンテーションで、完成に至るまでの建築家・IPとクライアントの限り無いほどのキャッチボールが印象的でした。敷地（約1600㎡）の、中央に蛇行したアプローチの両サイドにリゾート感覚の個室温泉が12部屋建ち、全体を和のテイストでまとめられていた。特にIPとしてのインテリア、建築家としての全体の配置計画そして、お客の目線でのアプローチや百人一首をコンセプトにした色彩計画、動線、しつらえ、そして癒される温泉でそこから見える坪庭とあらゆる角度から提案し、考えぬかれた建築、インテリアと、立体的に造られたランドスケープは建築家・IPならではの感心させられた。是非、一度行って見たいものです（写真 A）

次に、新宿から西に95kmほどの山の中に1999年の暮れに完成した私の自邸。（写真 B）

ここは、春夏秋冬が見事に3ヶ月ごとに繰返されるすばらしい環境にあります。コンセプトは、外断熱・高蓄熱・中気密・自然素材そしてローテク。まず、地上3階建てのRC壁構造（240mmの壁厚さ）を湯たんぽのごとく蓄熱体として活用し、その外側に断熱材をまとった杉材の外壁とステンレスの屋根を被せた2重構造の建物。（写真 C）

これは、家財を守り室内環境を常に一定に保つ『蔵』をイメージしています（外断熱・高蓄熱）。一方で1階のフロアヒンジの木製玄関ドアからの隙間風を意識的に取り入れ、冬場は土間とホールの間にある大きなハンガードアが風除口の役割をし、PSヒーターが冷えたコートと帽子と隙間からの新鮮空気を暖め、その新鮮空気は、2階のリビング等の生活空間にたどり着く途中で、暖炉で暖められた空気に染められる。7mある吹き抜け部の天井には（写真 D）、ちいさな穴が16個あり、ここから暖められ過ぎた空気は屋根裏を通り棟換気から排出され自然換気が行われる（中気密）。

日本人の文化でもある裸足の生活と老後も含め、床、家具、建具、柱に至るまで『桐』材を使用している（自然素材）軽い、暖かい、肌触り、断熱性能が良い、足腰間接にやさしい等の特長がある。

1年間で、外部温度が-10～35℃の温度差で環境での室内温度は、15～30℃で変位し年間平均で、20.3℃という室内環境を提供してくれている。ローテクでも、十分な住環境をつくる事ができ又環境やひとにやさしい建築が可能である。

どちらも建築的な切口でのセミナーですが、インテリアを常に意識した内容となっていて、来場者のアンケートでも好印象の回答が多くありました。感謝！

（霜野 隆）

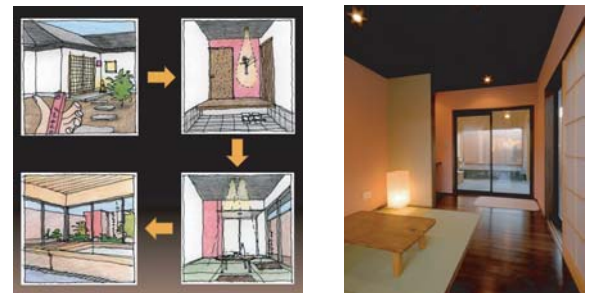


写真 A



写真 B

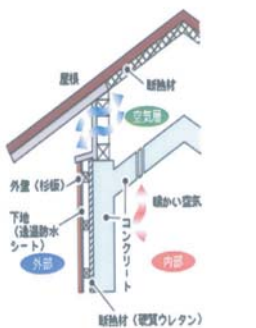


写真 C



写真 D

◆ リリカラ株式会社 新商品『K I O I・伊勢型紙のデザイン』の紹介

「伊勢型紙」―世界に誇れる日本の意匠―



伊勢型紙



kiai・Design-0013

kiai・Design-0019

kiai・Design-0022

kiai・Design-0026

kiai・Design-0027

kiai・Design-0032

《K I O I》Design

「伊勢型紙」は、重要無形文化財の指定（昭和30年）された貴重な文化遺産です。

奈良時代に起源を持つ型紙は、1619年に徳川頼宣が伊勢型紙を紀州藩の産業として保護して以来飛躍的に発展し、産地に由来し「伊勢型紙」と呼ばれています。その意匠は、袴、着物、などに使われ、江戸小紋、草木柄、花鳥風月の柄など、美を極めた日本文様の宝庫です。

幕末にはシーボルトが、浮世絵などと共に膨大な数の型紙を持ち帰り、「ジャポニズム」が西欧のアートシーンに大きな影響を与えることになりました。日本のアイデンティティーを象徴するようなシンプルでミニマムな染型は、欧米でも今再び“KATAGAMI”として大きな脚光を浴びており、グローバルな価値観を持った意匠芸術といえます。ウィリアム・モリス以前に、モリスを超えた装飾デザインが日本にあったとも

いえます。ここで紹介させていただいております型紙の意匠は、江戸時代から続いていた日本橋の老舗染物屋「丁子屋」が所有していた5000型の中から選りすぐったものです。現在では紀尾井アートギャラリー「江戸の伊勢型紙美術館」にて保管展示されています。

リリカラ（株）では、この世界に誇れる日本の文化財を、建築、インテリアに向けて、《K I O I》Designとして発信していきます。スタートのラインナップとして32点の意匠を紹介させていただき、更に1年ごとの追加、更新を予定しておりますので、ご期待ください。

私たちは、世界に誇れる日本文化を保存すると共に、次の世代に伝える使命があると考えています。

世界に向けて誇れるこの日本文化をインテリアを通してご紹介できることを誇りに思います。

◆ 新刊書籍の紹介



「花のナプキンワーク」
ナプキンと花1輪でできる簡単テーブルコーディネート
誠文堂新光社 浜 裕子著 ¥1,680

簡単・おしゃれなテーブル演出法を、記念日、パーティなどシチュエーション別に紹介しています。50例のナプキンの折り方を、オールカラーで、かわいくてきれいな写真とともに詳しく解説しました。見ていてとても楽しくなる本です。ナプキン1枚で食卓を充分素敵に楽しめる術が満載。ギフトとしてもおすすめします。
(花生活空間 浜 裕子)

◆ JIPATゴルフ交流会の報告

2008年12月13日（土）紫カントリークラブ あやめ東コースにてJIPATゴルフ交流会が開催されました。

今回は正会員の方の参加が少なかったのが少々残念でしたが当日は汗ばむほどの好天に恵まれ、皆さん和気あいあいとプレーを楽しんで頂けたと思います。

■参加者 : 29名（正会員8名・法人会員20名・ビジター1名）

次回は2009年6月を予定しております。日時、会場決まり次第お知らせいたしますので 皆様多数のお申込を期待しております。

JIPAT法人会員の会 ゴルフ交流会 幹事一同

■成績

優勝 : 東 淳一氏(ランドスケープハウス) グロス80 HDCP11.0 NET69.0
準優勝 : 三原 敬太氏 (パンインテリアプロダクト) グロス87 HDCP16.0 NET71.0
3位 : 丹治 孝氏 (エーピーシーセラミックス) グロス81 HDCP 6.0 NET75.0
ベストグロス: 東 淳一氏 (ランドスケープハウス)